

# 難民疲労巡回診療を

AMD A  
関谷さん コソボ隣国から帰国

日 北大西洋条約機構（N A  
曜 T O）軍の空爆によるユー  
金ゴスラビア連邦コソボ自治

州からの難民救援活動に当

日 たつていた国際医療ボランティア  
ティアAMD A（本部岡山  
市榎津）の関谷武司調整員  
（三宅）広島市安芸区が十  
五日、帰国しAMD A本部

で記者会見。「寒さや疲  
勞から病気になる子供や  
お年寄りが目立ち、医師  
も不足している」と状況報  
告した。

1999年（平成11年）4月16日  
関谷さんは、活動第一陣  
として四日、日本を出発。  
七日から十日の間、コソボ

自治州近くにある隣国アル  
バニア北東部の町クセスに  
滞在。AMD Aの派遣医師  
と難民キャンプ内で、ワゴ  
ン車での巡回診療や、病院  
の状況把握、今後必要な救  
援物資の調査などを行っ  
た。

みな殺しに遭ったり、暴行  
を受けた難民もいた」と話  
した。

AMD Aは第二陣として  
今月下旬、医師や看護婦を  
派遣する予定。また救済募  
金も呼び掛けている。あて  
先は郵便口座012501  
2140709「AMD A」  
（通信欄に「コソボ」と記  
入）。

会見で関谷さんは、約十  
万人がいるという難民キャ  
ンプについて「食料や医薬  
品などの救援物資も届いて  
いるが、難民たちは疲労の  
色が濃く、機動力を持った  
医療チームによる巡回診療  
が必要」とした。  
また「避難前に、家族が

コソボ難民の診療に当た  
るAMD Aの医師（左）  
と関谷さん（中央）10  
日、アルバニア北東部・  
クセス（AMD A提供）

